

「木耐火」～耐火構造を木造で！ 木造建築の未来を探る～

◆セミナー概要◆

木材利用が叫ばれる昨今、木構造を耐火構造として計画することで、市街地での木造4層集合住宅など、一見して「実現可能？」と思われるような数々の木造建築が実現しています。

近年の法改正もあいまって、それらは今後、より現実的な計画手段として身近なものとなってくる事でしょう。

この度のBridgeでは、数々の木造耐火建築の実績をもつ安井昇氏を講師に迎え、木耐火の基本概念に始まり、法規動向、近況や今後の展望等を伺い、これからの木造建築の可能性を探ります。

◆プレゼンテーション◆

先日、川崎市で起こった木造3階建ての簡易宿泊所の火災では、木造特有の“火の回りが早い”と表現される燃焼拡大が起きました。木造＝火事に弱いと言われることが多いですが、居住者の避難安全性能の確保、隣家への延焼拡大抑制など少し要点を知れば、火災に負けない木造建物をつくることも不可能ではないと言えます。

2000年の改正建築基準法施行以降、木造による耐火建築物をつくることができるようになり、今では木造6階建ての庁舎ビル、5階建ての共同住宅なども建築されています。

また、今年6月には、木造耐火関連の法令が改正され、木造3階建て学校が準耐火建築物で設計できるようになります。このような法令改正の裏には防耐火技術の裏付けが必ずありますが、意外と設計者に知られていないのも事実です。

本セミナーでは住宅からビルまで、最新の木造の防耐火法令とその根拠となる防耐火技術について知り、火災に負けない木造建築をつくるための手法について、事例を交えながら解説したいと思います。

◆ショールーム見学◆

1F 展示室には、各種取り扱い製品サンプル、せっこうボードの基本特性、リサイクル性、ハイクリンボード性能立証装置（ホルムアルデヒド吸収分解性能）などを、より深くご理解いただくためのスペースです。

2F 展示室には、設計事務所、建設会社、デベロッパー、ハウスメーカー、内装工事店など、当社製品をお取り扱いいただいているお客様へ、さまざまな壁システム（耐火壁、耐火遮音壁など）をご提案するとともに、実際の遮音性能を体験いただけます。

この音響体験室は、数々の吉野遮音システムの遮音性能を、実際の生活を再現した音源などにより、日本初の「YOSHINO 音響体験システム」として体験できます。

桜設計集団一級建築士事務所
代表

安井 昇

Noboru Yasui

1968年 京都市生まれ

1993年 東京理科大学大学院修了後、積水ハウス入社

1999年 桜設計集団設立

2004年 早稲田大学大学院修了、博士（工学）

建築設計の傍ら、木造耐火の研究に取り組み

現在、桜設計集団 代表

早稲田大学理工学研究所 招聘研究員

東京都市大学 非常勤講師

NPO 法人 team Timberize 副理事長



2015年 7月 6日(月) 14:00～17:30

会場 **吉野石膏株式会社 虎ノ門ビル 3F 大会議室**
東京都港区西新橋 2-13-10

定員 50名 (申込先着順)

会費 正・準会員 1,000円、一般 2,000円 (会費は事前振込となります)

CPD 3単位

主催 一般社団法人 東京建築士会
一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会

企画 一般社団法人 東京建築士会 青年委員会
一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会 企画委員会 景観部会

申込方法 必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてお申し込みください。
《申込締切日 6月30日》 ※お早めにお申し込みください



- 東京メトロ銀座線 虎ノ門駅 (1番出口) 徒歩8分
- JR 新橋駅 徒歩 13分

FAX : 03-3536-7712 e-mail : event@tokyokenchikushikai.or.jp

《ブリッジ連続講座 vol.10「木耐火」～耐火構造を木造で！ 木造建築の未来を探る～》申込用紙

氏名	年齢	勤務先
TEL	FAX	
E-mail		
種別	会員・準会員 (会員番号)	一般

該当部分を○で囲んでください。会員・準会員の方は会員番号をご記入ください。

CPD 登録希望の方 参加団体名 CPD 番号 (ID)

※参加票を送信致しますので FAX 番号かメールアドレスを必ずご記入ください。

問い合わせ 一般社団法人 東京建築士会 事務局担当：遠藤 TEL : 03-3536-7711

Bridge とは

建築基準法の法改正・環境問題など、建築を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、住関連ビジネスにおいても、高度な情報・知識・技術を駆使できるプロが求められています。そして生活者（消費者）はより快適な環境の実現を求め、各産業への期待がますます大きくなっています。このような時代、材料設備を供給する企業産業と生活者に近く設計及びスペックする建築士との勉強会を開催することにより、横断的な情報交流・研究の「場」となり、自己研鑽だけでなく新たなモノが創造（アウトプット）される環境となることを目指しています。